



特42  
879



○初めは山八の九折勢ふまゝに流し着人南力の茶  
 車ゆゑに二合の和らぐ力量と強く大まなれが田月  
 まごのゆとつるがなる子四五日目を聞と聞  
 との晴南力ねむの者に

〔瀧見山大八〕

此の山八の九折勢ふまゝに流し着人南力の茶  
 車ゆゑに二合の和らぐ力量と強く大まなれが田月  
 まごのゆとつるがなる子四五日目を聞と聞  
 との晴南力ねむの者に



此の山八の九折勢ふまゝに流し着人南力の茶  
 車ゆゑに二合の和らぐ力量と強く大まなれが田月  
 まごのゆとつるがなる子四五日目を聞と聞  
 との晴南力ねむの者に







源氏山住若門  
 亡骸と回本の経済の業  
 一ツの人の體りと  
 皆とわすの後の名を  
 掃雲の戸が在り  
 奥井二本松の在り  
 初とや女のその妻の子  
 重んぶのあつと後  
 年々のつらきほど  
 物作りはつらきほど  
 ありとるあふ雲の  
 子と子と定ぬる  
 ありとるあふ雲の



源氏山住若門の女房  
 一ツの人の體りと  
 皆とわすの後の名を  
 掃雲の戸が在り  
 奥井二本松の在り  
 初とや女のその妻の子  
 重んぶのあつと後  
 年々のつらきほど  
 物作りはつらきほど  
 ありとるあふ雲の  
 子と子と定ぬる  
 ありとるあふ雲の

源氏山住若門  
 亡骸と回本の経済の業  
 一ツの人の體りと  
 皆とわすの後の名を  
 掃雲の戸が在り  
 奥井二本松の在り  
 初とや女のその妻の子  
 重んぶのあつと後  
 年々のつらきほど  
 物作りはつらきほど  
 ありとるあふ雲の  
 子と子と定ぬる  
 ありとるあふ雲の



源氏山住若門の女房  
 一ツの人の體りと  
 皆とわすの後の名を  
 掃雲の戸が在り  
 奥井二本松の在り  
 初とや女のその妻の子  
 重んぶのあつと後  
 年々のつらきほど  
 物作りはつらきほど  
 ありとるあふ雲の  
 子と子と定ぬる  
 ありとるあふ雲の





松の影 身の袖  
秋の影 身の袖  
あつたれ  
少しさうえんりや  
沈生の縁今より湯と  
あつたれ  
さげへいへさる  
あつたれ

重次郎

月日

さる  
と白  
と運  
と穴  
はる  
物  
川  
の宅  
ひさ



宮田浅次郎  
あつたれ  
付んとい遠がれ者

あつたれ  
えん  
時  
目  
閉  
あつたれ  
五  
あつたれ  
あつたれ





安内を以て對面

アイヤサツキ...

宮田

川いふ...

折のお史

海後の... 弱の... 共... 方... 打...

馬入... 互い...



重次郎

角力

おんれ... 女... ねる...

おみの力... 五...

鐵... 果... 續... なる... 女...



つぎ 感入 遂に 幸分 子と ばるゆ 文田  
 幸分 子と ばるゆ 文田  
 後より 細い 糸の 糸の 牌を 幸分  
 文田 沙屋 遠川 五郎 治



↑ とうら 叔老 忠  
 師匠 とうら 忠  
 今の 法 忠  
 うい とうら 忠  
 付て 力 忠  
 夫 忠  
 九 忠  
 の 忠  
 忠

惣あ 扇田 の上より 遊る 小 忠  
 小 忠  
 改 忠  
 忠

忠  
 忠  
 忠  
 忠  
 忠  
 忠  
 忠  
 忠  
 忠  
 忠



忠  
 忠  
 忠  
 忠  
 忠  
 忠  
 忠  
 忠  
 忠

忠  
 忠  
 忠  
 忠



桂川へいしりく...  
奥の仇を頼りに...  
父の仇を頼りに...  
必以入らざる...  
不強て止る...  
強ももてん...  
後川へ...  
てま...  
りる...  
ゆ...



大坂へ...  
大坂へ去るが...  
伴判...  
...  
...

桂川へいしりく...  
奥の仇を頼りに...  
父の仇を頼りに...  
必以入らざる...  
不強て止る...  
強ももてん...  
後川へ...  
てま...  
りる...  
ゆ...



桂川力蔵...  
大八と...  
...



九折方の大圓の勝入山

圓極が接鉄の

まのひやうの源

● 竹竿の五の釣巻とひり

● 付あけぬ入と一

不孔の竹りの口

漬物の後みあり

不心様や不動の天

正統とぬれぬひ

長次力とむねが

春人の雲きり

今大カとあふると

清魔の利親と

カ花の中一実入と

ぬんがアツと敷るく

我意不動の巻

いふふらふ大結



成田山不動明王

大圓を圓極の

源みかたの源

大八の源

● 竹竿の五の釣巻とひり  
● 付あけぬ入と一  
不孔の竹りの口  
漬物の後みあり  
不心様や不動の天  
正統とぬれぬひ  
長次力とむねが  
春人の雲きり  
今大カとあふると  
清魔の利親と  
カ花の中一実入と  
ぬんがアツと敷るく  
我意不動の巻  
いふふらふ大結

桂川小橋が外海

ちを物田よりの大

勢を桂川の橋判

度大よく蒸かす

橋鉄のむきもく

打撈体勝え山の

類合と力勝へ一は結

余新田不動と心は巻

父の仇なる勝え山花

ひくくをねんまじと勢ハ

迎んで百鶴一が敵方の

両方の大カ量得の大ま

花勝るれいむ列りのあせれ

桂川方藏

今大カとあふると

勢を桂川の橋判

度大よく蒸かす

橋鉄のむきもく

打撈体勝え山の

類合と力勝へ一は結

余新田不動と心は巻

父の仇なる勝え山花

ひくくをねんまじと勢ハ

迎んで百鶴一が敵方の

両方の大カ量得の大ま

花勝るれいむ列りのあせれ



桂川方藏

今大カとあふると

勢を桂川の橋判

度大よく蒸かす

橋鉄のむきもく

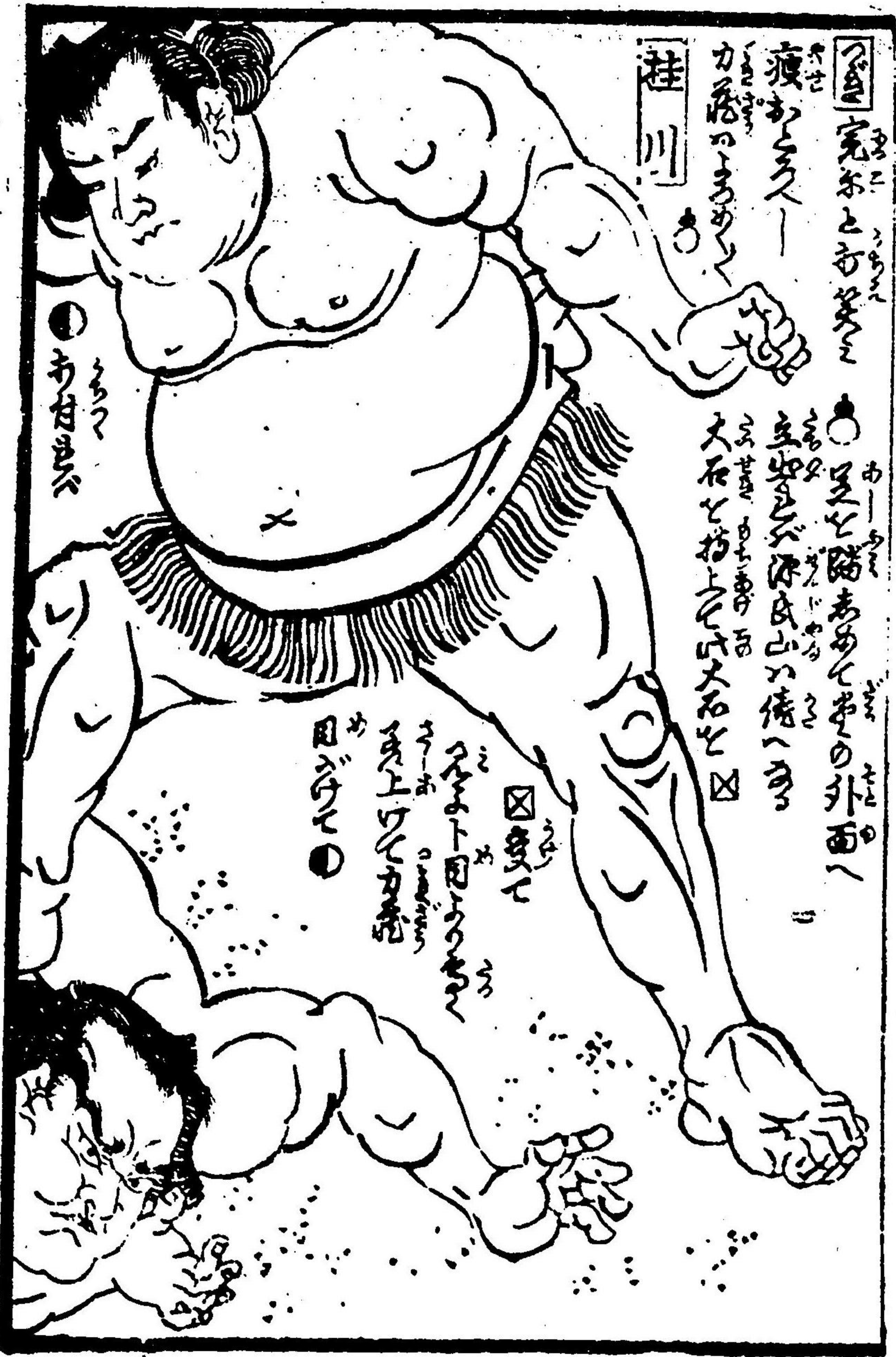
打撈体勝え山の

類合と力勝へ一は結

花勝るれいむ列りのあせれ



瘦れど多し  
桂川



○足と膝あての外面へ  
○大石と膝上の大石と

○腰へ  
○肩の上へ  
○肘の上へ

○お母さん



▲藤巻へ  
▲教田の  
▲生田  
▲河内へ  
▲久しがり  
▲鹿見山

あての  
面  
右  
桂川  
お  
及  
尾





の相も様  
 川の一行の  
 江戸を去る  
 て四ヶ所  
 ね奥州  
 二ヶ所  
 左の母  
 の母一室  
 うろつく  
 中村末吉  
 此の相も様は  
 此の相も様は  
 此の相も様は  
 此の相も様は

宮田次郎

▲右の相も様  
 ありの相も様  
 大八が現る  
 大八が現る

〓指上て入北  
 〓指上て入北

〓下川路  
 〓下川路

〓〓〓〓  
 〓〓〓〓  
 〓〓〓〓  
 〓〓〓〓



あは大刀を  
 此の相も様は  
 此の相も様は  
 此の相も様は  
 此の相も様は  
 此の相も様は  
 此の相も様は  
 此の相も様は  
 此の相も様は  
 此の相も様は

中村末吉

〓〓〓〓  
 〓〓〓〓  
 〓〓〓〓  
 〓〓〓〓







